

「尾崎小学校の尾崎三尺棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

阿久根市立尾崎小学校

2 学年

全学年児童（計11人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

- ・ 7月から週1回 朝の活動，総合的な学習の時間で1時間（1年生は創意）
- ・ 9月は尾崎棒踊り保存会指導による集中練習（毎週金曜夜1時間計3回）

(2) 発表の日時・場所

秋季大運動会（尾崎小学校校庭） ※例年は校区合同運動会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称 尾崎三尺棒踊り（おさきさんじゃくぼうおどり）

(2) 由来

数百年前から踊り継がれているものであるらしいが，詳しい資料が残っていない。地域の老人会，保存会，文化協会の方に伺ったが詳しいことは分からない。弓木野集落と尾崎集落のそれぞれに棒踊りがあったようだが，現在行っている踊りは尾崎集落の三尺棒踊りのようである。

(3) 構成等

6人一組で踊る。三列縦隊が基本である。頭には白いはちまきを締め，かすりの着物を着て白いたすきをかける。足は黒の靴下の上に，わらじを履く。腰には堅木の三尺棒を差す。戦いの踊りで，足の裏を見せないように踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

昭和40年代人口の減少とともに，伝承活動も途絶えがちであったが，昭和54年尾崎小体育館落成記念式典にあたり，尾崎三尺棒踊り保存会の支援を受け，5・6年生児童で「郷土芸能『尾崎三尺棒踊り』児童保存会」が結成され，14年ぶりに尾崎三尺棒踊りが復活し，今に至る。平成20年からは，総合的な学習の時間に毎月1回全校で練習を行い，校区合同運動会で披露してきた。

6 文化財伝承・活用の取組で工夫した点

(1) 家庭教育学級の活動として，保護者も集中練習時に集まり，尾崎棒踊り保存会に着付けを教わった。児童数減少に伴い，踊り手の不足の場合，卒業生や保護者に加わってもらい，二組つくっている。

(2) 着物は地域の方の手縫いで，着用後はクリーニングに出して大切に保管している。

7 取組の様子



【練習状況：尾崎三尺棒踊り保存会による指導】



【発表の場：令和2年度 第73回大運動会】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

○ 児童

総合的学習の時間にふるさと尾崎の歴史やよさについて調べている。三尺棒踊りの振りを覚えるのは大変だったけど、6年生が優しく教えてくれた。

○ 教職員

高学年がリーダーとなって、積極的に下学年に踊りを伝承する態度が見られた。11人の児童と中学生1人で2チームつくることができた。学校・家庭・地域が一体となって伝承していくことができた。

○ 保存会から

新しく加わった低学年3人も覚えるのが早くて驚いた。細かい部分は練習が必要だが、9月までにだいたいの流れを覚えていたので、指導しやすかった。

○ 保護者から

長く続く伝統を我が子も体験できて嬉しい。衣装がとても勇ましい。人数は少ないが、学校や地域と共に伝統を守っていく必要がある。

○ 地域の方から

本年度はコロナウイルス感染防止で運動会に参加できなくて残念だった。毎年、楽しみにしているので棒踊りだけでも見たかった。